

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

エクアドル共和国 コルタ地域開発プログラム
(ECU-196377)

チャイルド・ストーリー 祖父母とともにクイ*を育てています

*クイ:この地方でよく飼育されている食用の小動物

コルタ地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域の中の、高い山に囲まれた荒れ地で、カルロス君とマリアちゃんは祖父母とともに暮らしています。母親はマリアちゃんを出産する際に亡くなり、父親は母親の死後、仕事を探すと行って家を出た後、別の土地で新しい家族を持ちました。残された幼い2人を、母方の祖父母は愛情を持って育ててきましたが、現金収入は少なく、貧しい生活が続いていました。

しかし3年前にこの地域でワールド・ビジョン(以下、WV)の支援が始まり、カルロス君とマリアちゃんの家族はADPから8匹のクイ(テンジクネズミの一種)の提供を受けました。クイは順調に増え、増えたクイを売ったお金で、祖父母は2人の学用品や制服を買うことができただけでなく、1区画の土地も購入することができました。

カルロス君とマリアちゃんの家では、クイ以外にも、鶏や牛、犬、猫を飼っています。2人は動物の世話をするのが大好きで、学校からの長い道のりを帰って来た後、動物のえさやりや牛の放牧を手伝います。「2人はADPの集会で、子どもの権利や、子どもが受けるべき健康、教育、栄養などについて学び、より良い生活に対する希望を持っています」と祖母は嬉しそうに話してくれました。



祖父母と暮らすカルロス君(10歳)とマリアちゃん(8歳)



コルタ地域は標高3,000mを超え、気温が非常に低くなるため、クイは小屋の中で飼っています

0～5歳を対象とした事業

家庭菜園が子どもたちの健康を支えています

5歳未満児の貧血が
56%から**29%**に低下



保健省および経済社会包摂省と協力し、300家庭に対して子どもたちの健康管理、病気の予防、また栄養の大切さに関する研修を実施しました。また、支援地域内26村の250家庭が家庭菜園で大麦、キャベツ、ブロッコリー、ニンジン、たまねぎ、ほうれん草を栽培しています。



地域の母親たちは栄養バランスの良い食事の大切さを学び、実践しています

現地ではイモやトウモロコシといった穀物（炭水化物）に偏った食事が多いため、各種野菜からビタミンなどの微量栄養素をしっかりと摂ることが子どもたちの栄養不良改善のためには重要です。支援活動の結果、5歳未満児の間で貧血を抱える子どもの割合が56%（2012年）から29%（2014年）に低下しました。



家庭菜園で野菜を栽培する母親たち

6～12歳を対象とした事業

子どもたちが生き生きと授業に参加し、より良く学べるよう研修をしています

73人の教師が研修に参加し、**17**の学校で学びを実践



エクアドル政府は、これまでの教師からの一方的な教授法ではなく、生徒の参加を促し、教師と生徒の対話を大切にする授業を目指しています。しかし、特に農村部の学校までは政策が十分に浸透しているとは言えず、WVなどのNGOが補完的な役割を担っているのが現状です。



参加型の授業を楽しむ小学4年生の子どもたち

2014年度は、生徒参加型の授業方法に関する研修や教材を17の小学校で働く73人の教師に支援しました。また、課外活動としてサッカー教室をコルタ市と協力して開催し、ユニフォーム、ボール、カラーコーンなどの備品を支給しました。



サッカーはエクアドルで最も人気のあるスポーツです。サッカー教室の中で、子どもたちは規律や仲間と協力することの大切さを学びます

13～18歳を対象 とした事業

クイの飼育や酪農を通じて、子どもたちの進学のを支えます

300家庭に牧草の種を支援



コルタ地域では、家庭が貧しいがゆえに中等教育、高等教育へと進学できない子どもたちがまだまだ数多くいます。13～18歳の子どもたちを持つ家庭の収入向上のため、12家庭にアンデス地方で貴重なタンパク源であるクイを提供し、その育て方も教えました。クイは繁殖力が強いので、数が増えてくれば市場で販売し、現金収入を得ることができます。

また、この地域では酪農が盛んなため、300家庭に対して牧草の種を支援しました。乳牛からの搾乳量が増えれば、より多くの収入が得られ、子どもたちの進学のを支えることができます。



住民に対する酪農研修の様子

支援地域の女性のインタビュー

ボランティアとして地域の女性に家庭菜園の指導をしています

Q.家族構成を教えてください。
両親と6人の弟妹、そして夫と6歳の子どもとともに暮らしています。

Q.ADPのどのような活動に参加していますか。

ADPの集会に参加するうちに、家庭や地域の中で自分が果たすべき役割について深く考えるようになりました。最も弱い立場に置かれた子どもたちや人々のためにできることをしたいと思い、ADPのボランティアになりました。今は5歳未満の子どもを持つ母親たちに、家庭菜園での野菜の栽培方法を教えています。

Q.今の夢を教えてください。

より良い母親になり、また地域の人々を助けていきたいです。経済的な制約から、私は高校卒業後、高等教育には進めませんでした。より地域開発について深く勉強することが今の夢です。



インタビューに答えてくれたグラディスさん(30歳)

ADPマネージャー インタビュー

Q.ADPでどのような仕事をしていますか。
村の人々とともにADPの活動計画を立てるほか、若者の経済開発など様々な活動が順調に進むよう業務の調整を行っています。



コルタADPのスタッフ
左端がインタビューに答えた、
ADPマネージャーのアルフレド・アティ(36歳)

Q.2014年度、工作上最も大変だったことは何ですか

コルタADPIはスタッフの人数が少ないので、各スタッフの業務量が多く大変でしたが、新たに1人スタッフが加わり、協力して仕事を進めています。

Q.ADPで働く原動力となっているものは何ですか。

地域の子どもたちの健やかな成長のために、地域レベルで具体的な変化をもたらしていくことができることに、この仕事のやりがいを感じています。

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。



ツアーでチャイルドと対面したチャイルド・スポンサー

そのほか、特に2014年度はスポンサー・ツアーを実施し、支援者の皆さまにチャイルドと出会い、エクアドルでの支援活動を直接ご覧いただく機会を持つことができました。

会計報告

収支計算書

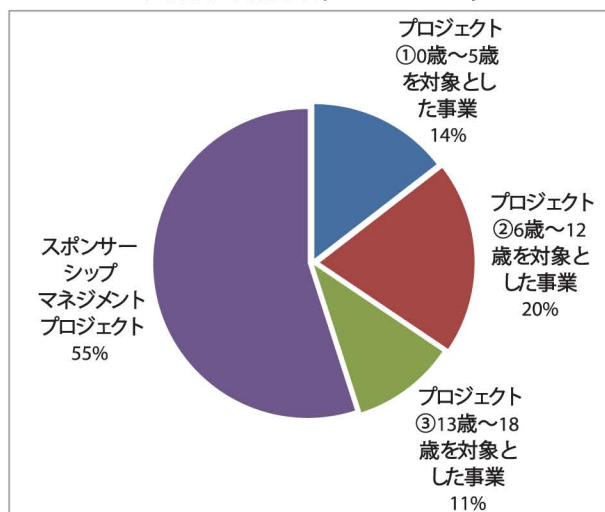
自 2013年 10月1日 至 2014年 9月30日

	ECU-196377 (単位:円)
プログラム支援額	32,662,477
チャイルド・スポンサーシップ	32,662,477
当期支援額	503,738
前期繰越金	33,166,215
プログラム支援額合計	

プログラム支出額	
プロジェクト①0歳～5歳を対象とした事業	4,821,741
プロジェクト②6歳～12歳を対象とした事業	6,612,910
プロジェクト③13歳～18歳を対象とした事業	3,523,525
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	18,245,246

プログラム支出額合計	33,203,422
次期繰越額	-37,207

支援分野別内訳(ECU-196377)



スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクトでは、チャイルドとの手紙の交流や成長報告以外にも、子どもの権利保護に関する地域住民への啓発活動やシングル・マザー、親を亡くした子どもたち、経済的に特に貧しい家庭への支援(食料や家畜など)を行いました。

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話:03-5334-5351 • Fax:03-5334-5359

email: dservice@worldvision.or.jp • ホームページ: www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。
ホームページにぜひお立ち寄りください。